

就学前施設再編説明会（緑幼稚園）

場 所：緑幼稚園

日 時：平成30年5月25日（金）18時30分～20時10分

参加者：25名（就学前児童保護者17名、その他8名）

質疑等：

質問：市長は説明会に来ていないが、どのような判断のもと市長は閉園日を決定するのか。本日の説明会の責任者はだれか。

回答：班長が責任者として来ており、皆さんのご意見をきちんと報告し、閉園日を決定します。

質問：小学校は緑丘小が瑞穂小より100人多いにも関わらず、幼稚園は緑幼稚園の方が少ない。保護者のニーズがあった3歳児保育や預かり保育を実施してこなかったことの責任の所在、閉園対象園がみずほ幼稚園から緑幼稚園に変更になった理由を教えてください。幼稚園教諭から見て緑幼稚園の環境をあきらめてよいと考えているのか。

回答：私立幼稚園では、3歳児保育や預かり保育を特徴して実施されてきたが、公立幼稚園は、1校区1園のもと4歳・5歳の教育をしっかりとして小学校につなぐことが役割でした。学校教育審議会では10年以上前から適正規模、適正配置について議論されており、この計画の基となる平成26年の答申では、適正規模、適正配置だけでなく、公立幼稚園の役割として研究・研修や小学校との接続についてブロック内の拠点園として幼稚園・保育所など就学前施設の先導的な役割を果たすこととされ、今回踏み出すこととなります。3歳児保育については答申では難しいとされていたものを、2年間にわたる市民講座でご意見をいただき、今回、実施することとしました。預かり保育も答申どおり行います。これまで1校区1園制でやってきており責任は教育委員会にあるが、これからに向けて今回の計画としています。また、緑幼稚園の環境は園庭も広く緑も多く良い環境と思います。市内16幼稚園、いろいろな園の環境があります。教育委員会の議論の中で、緑幼稚園存続の案もありましたが、ハード要件としてはともに満たしており、ニーズ・園児数としてはみずほ幼稚園の方が多く、みずほ幼稚園を存続としました。

質問：連P理事会で幼児教育ビジョンの説明がなかったのはなぜか。

回答：時間的なこともあり、配付させていただきました。改めてご説明させていただきます。

質問：閉園時期が決定していないのに認定こども園の開園に向けて動いていることは納得できない。

回答：計画では平成32年としており、冒頭の説明のとおり計画に合わせた予算の議決をいただきました。認定こども園に期待されている方も多く、開園に向けて動いています。

質問：これまで説明会が実施されていたことを知らない。広報紙やホームページを見る余裕もない子育て世代への工夫が欲しい。パブリックコメントの周知方法は十分だったのか。計画が急なため市民は戸惑っている。

回答：昨年8月の計画公表以来、これまでおよそ100回、約2千人の参加をいただきました。議会からもさらなる市民周知を求められ、子育てアプリの活用や、むっくむっくルームでの説明会の掲示、また就学前の子どもさんのいるすべての家庭にダイレクトメールを送るなど今までにない手法も用いて行ってきましたが、すべての方にお伝えすることがいかに難しいかを感じているところです。

質問：閉園対象園でも3歳児保育を実施できないか。閉園時期が決まっていないのに存続園で預かり保育を実施するのか。閉園までの2年間、緑幼稚園で預かり保育をすれば人気が出て存続できるのではないか。

回答：再編により生まれる人材を活用して、3歳児保育を実施することとしています。預かり保育は平成30年度より先行実施し、平成32年度からの方法・内容等を検討するため、伊丹幼稚園・おぎの幼稚園の2園で開始しました。

質問：人口減少に対して若い世代を呼び込む努力はしているか。増えた場合、閉園後は一つの施設に詰め込むことになるのか。

回答：さまざまなまちづくり施策を行っています。計画では、現在(平成29年度)の園児数より多い定員を設定しています。

質問：4歳児で緑幼稚園、5歳児のみずほ幼稚園に入園できるか。抽選に外れて、公立幼稚園に入園できないことはあるか。閉園になる園区の子どもに優遇策がほしい。(同じ園区で一緒に通える)子どもの絆を大切にしてほしい。1校区1園時代の抽選と今回は意味が違う。

回答：原則は、定員を超えると抽選となります。この地域ではまずないと思いますが、絶対にはないとは言いきることはできません。存続園地区においても同様の意見があり、閉園対象園だけを優遇することはできません。

質問：幼児教育ビジョンの内容を私立幼稚園にどこまで担わせられるのか。

回答：私立幼稚園はそれぞれの教育方針を持っており、それに基づいて教育をされています。伊丹市の子どもをこんな子どもに育てたいなど、公立・私立の幼稚園・保育所からも委員になっていただき、地域代表の方や学識経験者も入っていただき、みんなで議論し、「愛情」「自然」「ことば」をキーワードとしてまとめました。国が定めた幼稚園教育要領や保育指針などに基づき、すでに各園で取り組まれているものを、特に、伊丹市全体で、改めて意識してやっていこうということです。研修会も行っていくこととしています。

質問：緑幼稚園の跡地利用はどうなるのか。

回答：原則は売却となります。売却して幼児教育の充実に充てるほか、売却益は広く市民に還元されることとなります。住宅が建てばそこから固定資産税なども入り市民に還元されます。保育ニーズにより保育所が必要となった場合にはその用地として使うこともあります。

質問：緑幼稚園にある記念品は廃棄されるのか。

回答：園の備品などは、使用できるものは他の園で活用してもらうことを考えています。記念品をすべて残せるかどうかについては、残念ながらなんともお答えできません。

質問：納得のいく回答が得られるまで計画を進めないでほしい。閉園ありきでなく存続してほしい。再度保護者が集まれる時間に説明会を実施してほしい。

回答：平日の午前中がよいということであれば、日程調整させていただいて伺うこととします。